

令和7年度第1回富士見町総合教育会議 議事録

日 時 令和7年10月8日（水） 午前9時40分～午前10時30分
場 所 役場2階 202会議室
出席者 町長 渡辺 葉 教育長 矢島俊樹
教育委員 小林俊一 北原八重子 名取美好 内村まゆみ
子ども課長（金井真由美） 生涯学習課長（小林直志）
総務学校教育係長（名取淳二） 総務学校教育係（中山道子）
総務課長（小林裕樹） 企画統計係長（小口 裕）
庶務人事係長（金子真人）

1. 開 会

〈庶務人事係長〉

2. 確認事項

（1）小学校保育園あり方検討について

3. 協 議

（1）小学校保育園あり方検討について

〈町長〉

小学校保育園のあり方については、教育委員会だけでなく、町長部局も一緒になって話せる場である総合教育会議で議論していくことが適切ではないかと考える。

また、学校や保育園の配置は、学校の教育内容や保育内容だけでなく、地域の未来や町の未来にも大きく関わってくる事項であるので、地域に根差した教育環境を継続していくために民意を反映して進めていく。

子ども未来プロジェクト会議は、誰でも参加できる形で複数回開催し、教育理念のほか、帰ってきたい街にするために学校、家庭、地域はどうすれば良いのかということなどをしっかり話し合っていく。

小学校保育園あり方検討審議会は、学校の長寿命化等のタイムリミットがあり、早期に方向性を出す必要があるため、多様な意見が担保されるように世代や性別、居住地域などを考慮して委員を選任し、教育環境だけでなく、費用面も含めて話し合っていく。二つの会議体は分かれているが、随時、連携して情報共有していく。

各学校の長寿命化改修の期限があり、一概には言えないが、それを過ぎると改修が難しくなる可能性が高くなるため、耐力度調査にて長寿命化改修に耐えうる状況なのかどうかということを調査して、その結果による選択肢の中から令和8年度中に一定の方向性を出し、令和9年度中には設計の内容を詰め、令和10年度には設計、改修と進めていくスケジュールとしている。

<委員>

- ・長寿命化改修により現在の3校が存続できるなら望ましい。
- ・学力をつけるには一定の人数がいた方がいいが、オンライン授業などいろいろな方法はある。
- ・少人数では自分の意見を出しやすいなどの利点もある。地域の人ともかかわりやすくなる。
- ・複合化についても、深く地域に根ざした人間関係を構築できるメリットがある。
- ・3歳以下の子どもの保育について考慮が必要。
- ・どうやったら将来的に子どもが増えるかということが大事。子どもが減少すれば学校の運営が難しくなる。地域が活性化すれば若者が残るので、そのようなことを考えていかなければならない。
- ・3校改修となると財政的に厳しいと思うが、進められるなら進めていただければと思うが、子どもの数等を評価していかなければ後々大変になるという懸念もある。
- ・3校残すことで学校や子供たち地域の方たちの結びつきが一層強くなる機会となる。
- ・小規模校のメリットもあるが、児童数が多いことで様々な個性の子どもたちとの交流で学ぶこともある。子どもたちがどういう環境で学びたいかを考える必要がある。
- ・同時進行であるならば、できるだけ意思疎通や途中経過報告を踏まえながらスタートを切るといいと思うし、そうせざるを得ないと思う。
- ・佐久市の望月地区を含む5つの小学校を中心地区へ統合した結果、望月地区には人がいなくなったという記事があり、富士見町でも十分考えられる。小学校の存在は大きい。
- ・地域全体が小学校大事にしようという意識がすごく強くあるので、このことは本当に大事にしなければいけないと思う。
- ・選択肢を活かせるスケジュールで、選択肢は残しながらスタートするということが賛成。
- ・3校存続っていうのは富士見町の未来を考える上で、絶対大事だと思う。
- ・子ども未来プロジェクトは中学校のあり方も同時に考えて必要がある。小学校や中学校の枠組み自体を考える必要があるのではないかなと思う。
- ・学校は地域のコミュニティの中核である。
- ・3校残すことの裏付けとして、社会増があるということだけではなく、3校維持できるだけの社会増が見込めることがなければ厳しいのではないかなと思う。

<協議結果>

- ・子ども未来プロジェクト会議は、中学校のことも含めて、教育理念などを長期的に話し合う場として開催し、小学校、保育園の校舎のハードの部分については小学校保育園あり方検討審議会に委ね、2軸で進めていく。